十島村教育委員会だより　平成 26 年 9 月号

とわやかトカラ情報

一隅を照らす十島の教育

十島村教育委員会
〒892-0822 鹿児島市泉町 13 番 13 号
TEL　099-227-9771

9月・・・23 年ぶりの再訪

十島村教育長　有村　孝一

教育長に就任いたしまして，１か月がたちました。その間に２回ほど島に行きました。１回目は，就任のあいさつということで，各島の先生方や島の方々と港にてのあいさつとなりました。それぞれの島で，懐かしい顔や新しい顔の皆さんと出会うことができました。以前から面識のある方々からは，「元気だったか。」「お久しぶり」という声をかけていただきました。中には「お帰りなさい。」という声をかけてくださる方もおられて，大変うれしいでした。十島の皆様の心の温かさを改めて感じることでした。

「フェリーとしま」は１３９１トンだけあって，その乗り心地は，１０９０トンの「としま」に比べると大変素晴らしいものでした。数年後には，また新たな船が計画されているようですが，「汽船も亦道路なり。」まさにその通りで，ますますよい道路へと，変容していくことと思います。諏訪之瀬島沖では行きも帰りも，多数のイルカが歓迎してくれました。折からの凪で，船の一番高いところから，長時間ウオッチングを楽しむことができました。宝島では，島内の文化財等の視察をしました。鍾乳洞に行きましたら，当時私が作ったものを，そのまま作り替えた案内板が建ててあり，大変懐かしく読むことでした。また，イギリス坂の石碑も当時のままで，再び十島に来たんだという思いを強くしました。久しぶりの荒木崎灯台は，さすが「かごしま百選」に選ばれたビューポイントだけあって絶景でした。 大籠海水浴場は南国ムードが漂うもので，その近くのアダンの群生が，さらにその雰囲気を醸し出していました。

改めて，十島には守っていかなければならない豊かな自然や文化財等がたくさんあるということを，肌で感じることでした。船から朝霧（あさもや）のイマキラ岳を眺めながら，これから幾度となく訪れるであろう宝島に別れを告げました。

今回の訪問で，これから自分のやらなければならない事が次第に明確になり，その責任の重大さを強く感じました。今後他の島も訪問していく予定ですが，各島の良さを生かしながら，「十島は一つ」という思いで職務に努めてまいりたいと思います。この 23 年間で十島は発展し，大きな変貌を遂げてきていました。その様子を具に見ることができてよかったです。

☆歓喜に湧くファミリー劇場☆

７月 22 日（火）宝島，正調おはら節保存会
５名の踊り手が「明治一代女」「人生櫻」「越前すいかずら」など優雅な踊りを披露。

８月 30 日（土）諏訪之瀬島，伊地知元子他
ピアノに合わせて２人の歌手がポップス，童謡，映画音楽とソプラノ,バリトンで魅了。

９月　６日（土）悪石島，ジョー一世
トランプ芸や魔法の金輪，消える一万円札，宙に浮くテーブルなど驚愕のマジックショー。

９月 14 日（土）平島，弘月英太朗
「無法松の一生」「俵屋玄蕃」「まつり」「夫婦岩」などこぶしの効いた男の演歌。

９月 16 日（火）口之島，正調おはら節保存会
５名の踊り手が「二輪草」「大利根無情」「河内おとこ節」「おはら節」など華麗な踊りを披露。　十島ファミリー劇場は，いろいろな公演団体・個人が各島の人々を元気付けているようでうれしい限りです。今年は，あと９月 20 日（土）の中之島と 10 月４日（土）の小宝島のみとなりました。

灯　シリーズ――十島の学校にやってきて

宝島小学校 １年　かみ しゅうへい

ぼくは，５さいのときにおとうさんのてんきんでたからじまにきました。はじめてフェリーとしまにのったときは「おおきいなあ。かっこいいなあ。」とおもいました。おじいちゃんやおばあちゃん，ようちえんのおともだちとはなれるのはさみしかったけど，たからじまには，いろいろなたのしいことやはじめてみることがいっぱいまっていました。めずらしいチョウをおとうととおいかけたり，ヤギのメイちゃんとであったり，あかいくわのみをたべたり，すももとりをさせてもらったりしました。がっこうにいくまえのおともだちがあつまるイマキラがっきゅうでは，みんなでうたをうたったり，おゆうぎをしたり，えをかいたり，こうさくをしたりしてたのしかったです。

ことしの４がつにぼくはしょうがく１ねんせいになりました。２年生のけんとくんとおなじくらすでべんきょうしています。がっこうでは，さんすうでひきざんのべんきょうがすきです。たいいくのじゅぎょうではしることもだいすきです。さかあがりもできるようになりました。

たからじまのうみは，とってもきれいです。はじめておよいだときは，「かいすいがめにしみたらどうしよう。」とドキドキしたけどすいちゅうめがねでうみのなかをみてみると，きれいなさんごやたくさんのさかながおよいでいてびっくりしました。にちようびにおとうさん，おかあさん，おとうととサイクリングをするのもとってもたのしいです。なかのよいともだちもできて，いっしょにあそぶのもたのしいです。これからもたからじまで，いろんなことにチャレンジしていきたいです。

絆　シリーズ――山海留学生として学ぶ

豊前市立千束中学校３年　宮山　雄輝
（平成 25 年度宝島中２年在籍）

４月に僕は２年生になり，中学生は麻鈴さんと陽菜と３人でしたが，３年生に新しく山海留学生が来たので４人でスタートとなりました。学校行事では，修学旅行や文化祭での劇の発表，島内一周駅伝大会など中学生４人で活動することが多く，楽しい思い出がたくさんできました。特に，心に残っているのは，島内一周駅伝大会です。僕は１年生の時，初めて列島マラソンに参加して８位だったので，今度はそれ以上を目指して頑張ろうと思っていました。ところが，台風の影響で中止になりとても残念でした。僕は，気持ちを切り替えて，島内一周駅伝に臨みました。部活動があり夕方に練習はできませんでしたが，毎週水曜日の体力作りの時間や体育の時間に走る練習をしました。本番では４人でチームを作り，僕は一番長い２区を走りました。出場の８チーム中，後から二番目にタスキをもらいました。そこで自分の前にいる選手の背中を視野に入れながら，腕をしっかり振ること，ストライドを大きくすること，地面を足の裏全体で蹴ることの３点を意識しながら一人，二人と追い越し，ついに一位で麻鈴さんにタスキを渡すことができました。結果は二位でしたが，じぶんの役割を果たし，チームに貢献できたのでよかったです。

４月からは，宝島を離れ，福岡で家族と一緒に生活します。僕は体験入学を経て水産系の高校に興味を持ちました。中学校３年生では，受験を自覚し，心を入れ替えて勉強を頑張りたいです。

【子どもたちの作品】

僕と幼稚園

口之島中学校3年　日高　裕星
（平成 26 年９月１日南日本新聞ひろば欄掲載）

過日，十島村連合の職場体験学習が行われた。トカラ列島の七つの島の中学生全員が，鹿児島市内の職場を体験する初めての行事である。僕は，中学,1,2 年の時には島内の畜産農家や郵便局で職場体験をしたが，今回は島内にない幼稚園の体験だ。参加する前は，園児たちと楽しくふれあうことができるか，とても不安だった。初日，幼稚園に近づくにつれて緊張が高まってきた。担当の先生にあいさつをして．いよいよ年長組の園児と対面する時がきた。「積み木でおうちを作ろう。」と園児２人が僕の手を引っ張って教室へ連れて行くと，他の園児からも次々と話しかけられた。僕の不安と緊張は一瞬で消えた。「園児と話をする時は，園児の目線になって話すといいよ。」と担当の先生から助言された。それをすぐに取り入れると，他の組の園児もぼくの名前を覚えてくれた。うれしかった。外遊びや工作，読み聞かせなどをさせていただいた３日間の体験の中で，僕は逆に元気をもらえた。最終日には，僕の似顔絵を園児からプレゼントしてもらった。感動で涙がこみ上げてきそうだった。この幼稚園で体験できて本当によかったと感じた。自信がついた。忘れられない経験となった。

この職場体験では，鹿児島市内の七つの職場が僕たちを受け入れてくださった。そのことへの感謝の気持ちを忘れずに，2 学期以降も自分の将来の夢に向かって精いっぱい取り組んでいきたい。あの体験は，今でも僕をみなぎらせてくれている。

十島村の小・中学校からのメッセージ　㉛

中之島小学校　　教諭　山下　俊英

今朝も６時過ぎに起きて，ラジオ体操をするために学校へ向かった。校庭には島に残っている子どもたち7,8人と教頭先生御夫婦，そして私。クマゼミの喧噪に包まれる中，ぼんやりとした頭で体操をした。いったん家に戻り，簡単な弁当を持って出勤。今日も，教頭先生と二人の職員室。近づいている台風の話題の後，淡々と黙々と今日の仕事を進める。さて，印刷するか。おっと，プリンターは修理のために鹿児島に行ったきり，なぜか帰ってこない。もう３週間になる。まあ，仕方がない。１０時からはクラスの男の子Ｓ君と約束していた作文の勉強。２時間かけて下書きが完成。ついでに苦手な算数もちょっとだけ復習。午後になると，数回に分けて大粒の雨。東南アジアのようだ。終業時刻の頃に地域の青年Ｋさんがやってきて，体育館でスポレック。途中でもう一人Ｍさんも加わり,1 時間半ほどで「ちょっと痩せた？」というくらい汗をかいた。今後も続けようと約束。「スポーツ中年団」と名付ける。そのあと，温泉に直行。はぁ～最高。帰り道，諏訪之瀬島や平島の上空にたくさんのちぎれ雲。紫，桃，橙とグラデーションが美しい。海からの風が涼しい。ピーロロロロロ・・・。裏山からアカショウビンの控えめな鳴き声。家に帰ると，暗い部屋からさきほどの風景が，窓の形に切り取られて絵画の様に見える。しばらく明かりを点けず，音を絞った音楽を聴きながら，椅子にもたれてぼんやり眺めた。日が沈み，我に返る。晩飯を作らなくては。日々減っていく食材を眺め，メニューを考えた・・・。生野菜が食べたい。・・・。

＊たった一日の中に，島ならではの生活がギュッとつまっています。そして，私は，こんな生活が嫌いではありません。

教職員仲間である「あなた」への
私からのメッセージ

慣れてしまえば近い場所です。こんなに近くに自分の価値観を大きく揺さぶる場所があるなんて。あなたの長い一生に「十島での経験」というスパイスを効かせてみませんか。